

序

喜界島は私にとってとびきりなつかしい島である。この島は私には“よい姿”に見えるし、中世以降の文物の残存情況もよいのに、先史遺跡の検出例に乏しかった。それでその風物になじむほど歩きまわってみたがうまくゆかなかった。

それが開発の進展と在地有志の方々の努力で相当数の遺物散布地点が発見されたというのである。昨年度だけで2度渡島し、旧知に会い、行政の援助を乞い、ハンタ遺跡を実習地に選ばせていただいた。教育長・図書館長・坂嶺区長には感謝の他ない。この間、奄美考古学会の中山氏が何度も大島から飛んで仲介に努めて下さったこと、地主の安田氏が作物を移植してまで御協力下さったことは忘れ難い。実習生の健康管理をお引き受け下さった前川医師には勿論、資材の準備、車輛の手配など調査一切の裏方を担当して援けて下さった喜界歴史研究会の方々にも、住民御一同の御厚情と併せて御礼申しあげねばならない。

さて、実習の成果について——、一生懸命に受講したことは認めるが、特に二年次生の“のり”が思わしくない。ひとりひとりについてはそれぞれの評価があるのだが、全体として何だかしらじらしい。いくら泥まみれの仕事をしてしても一向に汚れない。泥水の中を泳ぐようにさせても、つるんとしてきれいなのである。正直のところ私は戸惑っているのだが、多分、よくない現象なのだろう。考古学は“もの”から情報を引き出さねばならない。“もの”との距離は近い方がよい。現象に直面して抽象的であってはならない。心して今後の練磨に励んで貰いたい。

なお、学術上の成果はなかなかのものがあったと思う。当然ながら評価は本文に依らねたい。つじつまの合わぬ図面があるなど、読み辛い点については、これが実習報告書である点を掲げて読者の御寛恕を乞う次第である。

1987年3月1日

白木原和美

本文目次

ハンタ遺跡調査報告

一、遺跡の位置と環境	3
二、調査の概要	6
1. 調査の目的と経過	6
2. 層序	13
三、遺構	14
1. 1号・2号遺構	14
2. 3号・4号遺構群	17
3. 5号遺構群	22
4. 6号・7号遺構	22
5. 8号遺構	26
6. 9号・10号遺構	29
7. 11号遺構	30
四、遺物	35
1. 土器・陶磁器・土製品	35
2. 石器	48
五、まとめ	56

図版63~101

付 喜界島遺跡分布調査報告

一、遺跡の概要	104
1. 近年確認された遺跡	104
A. アギ小森田遺跡	104
B. 前田遺跡	110
C. 川堀遺跡	112
D. 島中遺跡	113
E. 上嘉鉄遺跡	116
F. 上砂遺跡	120
G. 大城久遺跡	121
H. その他	122
2. 周知の遺跡	124
A. 湾天神貝塚	124
B. 総合グラウンド遺跡	126
C. 中里貝塚	128
D. 荒木貝塚	129
二、まとめ	130

図版149~177

付説 I. ハンタ遺跡出土土器の岩石学的分析	135
II. ハンタ遺跡出土木炭の樹種と植生	139
III. 喜界島における古代製鉄法の存在に関する一考察	143